

第3回カーボンニュートラルやまがたアクションプラン 改定検討ワーキングチーム 議事概要

令和8年1月30日(金) 午後2時00分～4時00分
山形県庁 1001 会議室

○ 議事

(1)カーボンニュートラルやまがたアクションプランの改定(素案)について

(2)意見交換

(1)について事務局より説明後、各構成員より意見をいただいた。各構成員の意見要旨は以下のとおり。

【色摩慶子氏】

- ・ 資料2の「行動の省エネ」について、私の周りでも既に実施している例が多いので他の例もあった方がよい。この表は大変わかりやすく良い。
- ・ 資料3はボリュームが増えてしまっており、読むのが大変。
- ・ 環境省でも「サステナブルファッション」を取り上げている中、衣類の削減についての記載がないのが気になったところ。

【安達信樹氏】

- ・ 基本的に方向性がわかるのでいい改定だと思う。企業がカーボンニュートラルについて悩み事を抱えた時に、このアクションプランを見れば解決の糸口を見つけられる。
- ・ 資料3の6ページ、「グリーン経営の普及率」とは何をもって推し量るのか。数値目標のページに対応するアクションのページを記載したほうが、理解しやすいと思う。
- ・ 別紙2のタイトルについて、混同されないよう修正してはどうか。

【高橋志穂氏】

- ・ 「エコドライブを当たり前」との言い切りは強めとも感じたが、必要性を伝えるものと理解できたので、このままでもよい。
- ・ 資料1-2の省エネの(3)で「自家用車に頼らない」と言い切っているが、年代や地域によっては交通網が発達していないところもあり、人によって対応が難しいところもあるため、言い切ってしまうのはどうなのかなと思う。
- ・ 次世代自動車普及率は高い目標なので、我々としても次世代自動車に触れる機会を作っていかなければならないと思った。
- ・ 次世代自動車普及率の指標の中に軽自動車が含まれていないようだが、台数としても多く、軽自動車に乗ることで排出削減に貢献できていると思っている県民もいると思うので、軽自動車も含めてはどうか。

【佐藤江理子氏】

- ・ 資料2に、どのくらい節約になるか金額を明示しており、県民にとってわかりやすくてよい。行動の省エネについても、子どもが学校においてゲーム感覚で学んで、家庭に帰ってから親に話すことで、親も意識できると思った。
- ・ 指標2、環境マネジメントに取り組む事業者等とはどういうものか、小さな事業者も対象となるのかなど、もう少しわかりやすくしてほしい。
⇒（事務局回答）ISO14001 やエコアクション21 等を取得している企業のほか、デコ活応援団参画企業、県が開催する脱炭素経営セミナーへ参加した事業者、省エネ診断受診事業者など幅広に考えている。

【赤川健一氏】

- ・ ゼロカーボン宣言と環境計画、アクションプランと脱炭素社会づくり条例がどう結びついているのか、分かるように記載するとよい。
- ・ 条例の拘束力はどれくらいあるのか。条例の使いどころはどうか。
⇒（事務局回答）条例はいわゆる理念条例となっており、県民総ぐるみでカーボンニュートラル社会の実現に向け行動していくことを明文化したもの。
- ・ CO₂見える化ツールについては、自分も1回やってそれで終わっているの、結果に応じてどのように行動するべきかが示してあるとよい。
- ・ 資料2の断熱改修について、削減額としては6%と、他アクションと比較すると少なくとられかねないが、きちんと行う意味があることが伝わるようにするとよい。

【浦田格氏】

- ・ 6月をカーボンニュートラルやまがた推進月間とすることについて、我々の分野でも6月の第一土曜日に「やまがた森の感謝祭」を実施。カーボンニュートラル推進には森づくり活動も重要であるので、一緒に周知していただくとよい。
- ・ 資料2について、絵の向きと矢印の向きが逆になっているのがわかりにくい印象。また、100kg-CO₂よりも1kg-CO₂の例の方が感覚的にわかりやすいと思った。
- ・ 初期投資にお金がかかると思うので、「こういう補助がある」といった情報を概要版にも載せてはどうか。

【佐藤徹哉氏】

- ・ 資料3の22ページ、「子どもと一緒に考える」をいれていただき感謝。自ら問題意識を持って、自分ごととして主体的に取り組むことで、知識が増えものの見方・考え方が養われる。また、学校で学んだことが家庭で話題になれば大人の意識にもつながる。
- ・ 資料3の23ページに県の環境学習支援サイトにつながる二次元コードがある。外部講師に教えていただくことで学びが深まるので、出前講座の内容が充実し、利用する学校が増えていけばよいと思う。

【渡邊脩太氏】

- ・ 4つのキーアクションが重要。概要版のキーアクションの枠内で、脱炭素アクションを行うことで、環境だけでなく、グッドライフにつながるものであることや健康にもよく、お財布にも優しいという点を、ここでもしっかり伝えられるようにしたほうが「自分ごと」になる。改訂版のキーアクションのページについても、イラスト等を追加するなど目に留まりやすい工夫が必要。
- ・ 別紙について、わかりやすさを追求するなら、100円単位、1000円単位にしたほうがよいのではないかと思った。
- ・ 数値目標の「県内電力総需要量に対する県内で発電された再エネ割合」について、県の企業局は16発電所を運営しており、影響力が大きい。すでに電力会社と連携した県内企業への環境価値の提供を行う取組みなどがあることから、県のアクションとして付け加えてはどうか。また、更なる地産地消を進めるためには、売電先を決定する際に地域毎や発電所毎といった細分化した区分設定が必要。
- ・ 長井市で小学生へ環境学習を行う際も、必ず「お家の人にも話してくださいね」と伝えている。そこが大事だと思う。

【工藤美乃氏】

- ・ キーアクションの内容について、目に入りやすくわかりやすいと思った。ただ、家族の同居が前提のアクションが多いので、一人暮らしの学生には取り組める内容が無さそうだと思うのではないか。もう少し説明書きを充実すべき。この4つを変更しないとすれば、特にCO₂見える化について、節電や衣類の話なども入れて記載を充実したほうが、学生にも分かりやすい。
- ・ 近年、フードドライブの活動が活発だが、資料3への記載が少ないのもう少し盛り込んではどうか。
- ・ 6月の推進月間について、期間が終わっても継続につながるので良い取組みだと思うが、県としての具体的な取組み内容を明記してはどうかと思った。

【五味馨氏】

- ・ 資料1-1が一番、目に止まる人が多い。資料2の情報量まで減らせるといい。
- ・ キーアクションについて、私にはわかりやすいが、建物断熱化などが県民にわかりやすいか自信がない。「CO₂見える化」や「かえる」「つくる」「かかわる」レベルで、密度の高い言葉に置き換えられるとよい。
- ・ CO₂削減量の感覚はほとんどの人にとってはわかりにくいと思う。例えば52kg-CO₂の削減をみんながやった場合、推計すると家庭部門の削減目標の約5%くらいになる、というように、目標に対してこれをやるとどのくらい進むのか、と表現するとわかりやすい。
- ・ 日本全体でカーボンニュートラルを達成するとき、山形県は排出量より吸収量が多くなっていないといけない。国立環境研究所では都道府県の配分を計算しているが、山形県は約300万トンのマイナス。山形県の2050年における目標は、多分マイナスになっていないといけないと思われる。なお、森林の吸収量は今の2倍くらいあるということが全国調査で分かっている。

【三浦秀一座長】

- ・ CO₂削減量は何で表現してもわからない、お金の節減感覚でしかわからない。
- ・ 2050年までに再エネで50%、残り半分を省エネで減らすというようなロードマップを作ることが大事。太陽光発電設備の導入やエコカーへの乗換えが今できなくてもいいが、5年後乗換えのタイミングで、など将来プランが描ければいい。
- ・ 我慢のアクションプランと見えられたら終わり。皆さん困っているのは物価高騰であり、それに寄り添うことが大事。タイトルに家計や経営のためのプランであることを入れるなど、基本的な考え方として示すべき。
- ・ キーアクションの4つ目、再エネ導入については、見出しに再エネ設備導入・再エネ電力切替と2つあることを分かるようにすべき。
- ・ 市町村の取組みについて、区域施策編を作っていない市町村が県内に15ある。2030までゼロにすべく、県でサポート体制を組むべき。
- ・ 補助金は大事。県だけでなく国の補助なども臨機応変に入れていっては。
- ・ 山形県の課題で、素案に記載がないものとして、冬場の洗濯物の乾燥の問題がある。エアコンや給湯も含めヒートポンプという技術を使うことが重要であり、山形県に多い灯油ストーブから、エアコンへのエネルギー転換という目線で見るとも大事。家電と給湯機は項目を分けるべき。
- ・ 高齢化が進む中、デマンド交通など、自分で運転する以外の仕組みを地域で作っていくことも山形県の課題だと思う。今できることだけでなく、2050年に向け地域の仕組みをどう変えていくか、意見を出してもらうことが大事。

【オブザーバー：二藤部真澄氏】

- ・ CO₂の見える化後、実際にどう行動するかについて、国では「うちエコ診断」というプログラムを公開している。アンケート形式で入力することで、対策としてどういうことをするとこれだけ減る、というソフトで、ウェブ上で誰でも無料で使えるので、ぜひ活用いただきたい。
- ・ 学生環境ボランティアなど、若者との連携は大事なので、プラン上でもっと触れていただければよい。

以下、当日欠席の構成員意見（開催後取得）

【加藤瑶子氏】

- ・ 資料2の「100kg-CO₂の置き換え」は、ぱっと見たとき、何に置き換えるのかわかりにくく感じた。
- ・ 資料2の「行動の省エネ」は、誰でもできてお金があまりかからないものであり、はじめの一步として取り組みやすいと思った。
- ・ アクションプラン本体40ページの農業分野での排出削減において、カーボンニュートラルに向けた取組が農業者の収入になることを記載いただき感謝。
- ・ アクションプラン本体31ページにて、みえるらべるの紹介を追加いただき感謝。環境負荷低減に取り組んで生産された農産物を、消費者が見て選べるマークである旨を記載いただけるとありがたい。